

**北海道の環境活動
「恵まれた自然の未来への継承」**

北海道知事
高橋 はるみ 様

北海道の環境活動 「恵まれた自然の未来への継承」

北海道知事 高橋 はるみ 様



厳しさと恵みをもたらす北の大地

今回、ここ北海道で「IBM環境シンポジウム」を開催することができ、大変光栄です。大歳社長をはじめ、IBMの方々に感謝を申し上げます。

北海道の魅力は、何ととっても雄大な自然環境にあると思います。そこに農業をはじめとするさまざまな産業の潜在力があり、素晴らしい住民が暮らしています。

例えば農業を考えてみると、寒冷なこの土地では、病害虫の発生が少ないことから、農薬の使用量が少なくなくて済み、他の都府県の約2分の1程度しか農薬が使われていません。まさに北の大地の厳しい自然が、食の安全に取り組むうえでのベースとなっています。よく「道産子は芯が強い」といわれますが、その強さは厳しい自然環境に鍛えられつつ、自然の恵みに感謝する暮らしのなかから生まれてきたのではないかと思います。そして私どもには、この豊かな自然を次世代に継承していく責務があります。

北海道の気候は、温帯から亜寒帯への移行帯に属し、周囲を豊かな海に囲まれています。自然公園の面積は東京都の総面積の約4倍に相当します。大雪山、日高山脈などを代表とする季節の変化に富んだ山々。ミズナラなどの広葉樹とエゾマツ・トドマツなどの針葉樹が入り交じる天然の森林。阿寒湖、洞爺湖など、清澄な水をたたえる湖沼。ヒグマ、タンチョウなどの多様な野生動物――。

さらに、このような豊かな自然を有する本道にあっても、とりわけ陸と海が一体となった生態系をもつ知床には、人の手が加わっていない奥深い自然が残っています。

現在、ユネスコの世界自然遺産に指定されているのは、全国でも屋久島と白神山地ですが、知床は

日本で三番目の世界自然遺産を目指しています。

エコビジネスを基幹産業に

ところで、こうした北海道の自然環境は、一方でいろいろな問題も抱えています。例えばエゾシカが山々を駆けめぐっている風景はとても北海道らしく、観光客の皆様にも喜ばれていますが、実はこのエゾシカが増えて、人間の生活圏に入ってきたり、農林業への被害をもたらしたりしています。そこで私どもは、エゾシカの自然環境を守りながらも、その個体数の管理と資源としての活用を行っていく必要があります。

管理といえば、アライグマやブラックバスなどの外来種対策も大切です。アライグマは、人間が国内外の他地域からペットとして持ち込んだ外来種のひとつですが、ペットとして飼いきれなくなると、野山に放してしまう人がいます。その結果、野生化したアライグマがアオサギのコロニーを消滅させたり、シマフクロウの森に出没するといった例が報告されています。私どもでは今年3月、北海道の外来種リストを作り、約800もの生物種をリストアップしました。外来種の生態や影響を取りまとめたこのリストは、自治体としては全国初の取り組みで、道内外から高い評価をいただいています。現在、こういった外来種をいかに駆除するか、あるいは捕獲してどう活用するかが、北海道の生態系を守るうえでの重要な課題になっています。

続いて廃棄物対策ですが、ここに耳の痛いデータがあります。まず北海道の一般廃棄物は、一人当たり排出量が全国で2位、「ワーストツー」です。これは、家庭ごみに加え観光や水産などによる事業系の廃棄物も多いことに起因するものであり、北海道漁業の

代表であるホタテの貝殻は、そのままでは大量のごみになります。さらに、北海道は土地が広大であるため、一般廃棄物の埋立処分が安易に行われ、リサイクルされなかったことが、リサイクル率の低い原因となっています。

これを改善するために重要なのが、いわゆる3R（リデュース、リユース、リサイクル）です。北海道では平成12年に「ごみゼロ・プログラム北海道」というプログラムを策定し、官民をあげてこの問題に対処してきました。また循環型社会の実現や、地球温暖化の防止に向けて、「北海道循環型社会推進基本計画」を今年度中に策定します。さらに、これからの北海道を担っていく基幹産業の柱として、ITやバイオインダストリーとともに、リサイクル産業や環境関連産業を有望視しており、さまざまな支援策を展開しているところです。例えば大雪山などでは、「バイオトイレ」（排泄物を微生物で分解し、臭いのしない有機肥料に変えるトイレ）を登山客向けに設置していますが、これは商品として全国に向けて販売もされています。また北海道は酪農王国でもあるので、家畜の排泄物を利用したバイオガスによる発電も行われています。こういったリサイクル産業の事業化は、雇用の拡大にもつながるため、従来以上に力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

廃棄物に関しては、硫酸ピッチの不法投棄問題もあります。硫酸ピッチとは、不正軽油の製造過程で生じるものですが、残念ながら道外、特に千葉県などの首都圏からフェリーやトラックで運ばれてきます。それが北海道で発見されていることに、私ども道民はとても憤りを感じています。最近の例では、羊蹄山の雪解け水が湧き出している「噴出し公園」のすぐそばに、硫酸ピッチが埋められていたという由々しき出来事がありました。私どもは水際作戦で、道外から入ってくるタンカーやトラックの監視とパトロールを強化し、関係諸機関との連携で不法投棄を取り締まっています。

環境の大切さを次世代に伝えたい

地球温暖化対策については、北海道では平成12年6月に「北海道地球温暖化防止計画」を策定し、2010

年までに1990年度比で9.2%の温室効果ガス削減を目標にしてきました。ところが実際は、2000年度がプラス13%と、1990年度よりもむしろ増加しています。これも何とか改善しなければなりません。

北海道は地球温暖化の問題に関わる二つの面をもっています。

ひとつは道民一人当たりのCO₂排出量が全国平均の1.3倍で、民生部門、特に家庭や運輸部門から排出される割合が高いということです。1年の半分近くが冬場なので、暖房によるCO₂排出量が多く、また広大な土地でトラック輸送への依存度が高いことが、家庭と運輸部門でCO₂排出量を押し上げています。

もうひとつは、北海道の森林面積が地球温暖化防止に貢献する面をもっているということです。全国の森林の4分の1は北海道にあり、これは二酸化炭素の吸収源として有効な働きをすることができます。私どもはCO₂の排出量を減らす一方、炭素吸収による貢献も果たすという、いわば二正面作戦で地球温暖化問題に取り組んでいこうと考えています。


最後に環境教育ですが、環境の大切さを大人だけでなく、次世代を担う子供たちにも認識してもらうため、北海道では全道的にさまざまな施策を展開しています。特徴的なものとしては、札幌の近くにある当別町で、すでに廃校となった青山小中学校の跡を利用して、子供たちや先生方に集まってもらい、環境に関するセミナーを開くとともに、自然とのふれあい体験を通じた環境教育も行っています。

締めくくりとして、私どもはこの北の大地で経済活動と自然環境を調和させながら、恵まれた自然を将来に向けて継承していかなければなりません。どうかこの点で道民の皆様、そして道外から訪れてくださる皆様のご理解を賜り、北海道への関心を高めていただければと願う所存です。

試される大地
北海道

3. 人と自然の共生

野生動物と人間の間トラブル



増加 → 深刻な農林被害

↓

「エゾシカ保護管理計画」
個体数の管理

エゾシカ

試される大地
北海道

4. 外来種対策



アライグマ



ブラックバス

ペットが捨てられる
農業被害
在来種の駆逐

釣りのための放流
在来種の捕食

生態系の危機

